

宗岡二中だより 2月号



令和7年2月3日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

やさしいことばは、こだまする

Kind words can be short and easy to speak, but their echoes are truly endless.

校長 伊藤大輔

これまでに誰かから、やさしい言葉をかけられて、涙を流したことはありますか。「やさしい言葉は、たとえ短く簡単なものであっても、ずっとずっと心にこだまする。」今号は修道会「神の愛の宣教者会」の創立者マザー・テレサの思想を紹介します。

テレサはインドの貧しい人々と共に生き、その人生を通じて思いやりの大切さを行動で示しました。テレサが活動した二十世紀後半は、戦争や貧困、格差が拡大する時代でした。多くの人々が精神的にも物質的にも困窮していました。テレサは「言葉」に宿る癒しと希望の力を信じました。テレサが伝える一言は、貧困や病に苦しむ人々の心に小さな火を灯し、彼らに生きる力を取り戻すきっかけを与えました。たとえば、彼女は孤独な人々に「あなたは大切な存在です」と語りかけました。この一言で生きる意味を見出した人々がたくさんいました。

「心にこだまする」とは、心のなかで何度も反響するという意味です。テレサが言うように、言葉には力があります。力のこもった言葉は、人の心にずっと残ります。そして簡単に発することができる言葉も、相手の受け止めによって予想もしない影響を生み出します。ときに、その影響は次々と広がり、大きな変化をもたらすこともあります。

たとえば、何気なく誰かにかけた「ありがとう」という言葉が、相手の気持ちを和らげ、その相手がまた別の人にやさしさを渡していくことがあります。「ありがとう」の五拍に乗せた思いが人と人とをつなげるのです。では、やさしさは耳心地のよい言葉にのみ宿るのでしょうか。私は違うと思います。そのとき厳しいと感じた言葉であっても、やさしさを宿していることが往々にしてあります。時間を経て、誰かの思いがこもった言葉であったことに気付く経験はない

でしょうか。やさしさに心震えることばの中には、時間の経過とともに受け止めが変化するものも含まれている気がします。大切な言葉ほど、こだまする。

私たちは日々、多くの人とコミュニケーションを取る一方で、言葉を軽く捉える傾向にあります。SNSの普及によって、言葉が瞬時に拡散する時代となり、言葉の影響力は強さを増しています。それにもかかわらず、無責任な発言や誤解を招く言葉が他者を傷つける事例が増えています。言葉に担わせる責任を私たちは甘く捉えていないでしょうか。たとえ短い一言でも、誰かを前に向かせることもあれば、深く傷付けることもあります。言葉の力は強大です。この事実にしっかりと向き合わねばなりません。目を背けてはいけません。

ひとつのことばで けんかして	ひとつのことばで なかなかおり
ひとつのことばで 頭がさがり	ひとつのことばで 心がいたむ
ひとつのことばで 楽しく笑い	ひとつのことばで 泣かされる
ひとつのことばは それぞれに	ひとつの心をもっている
きれいなことばは きれいな心	やさしいことばは やさしい心
ひとつのことばを 大切に	ひとつのことばを 美しく

～「ひとつのことば」北原白秋～

言葉は誰かに届けるものです。宛先があるので、よって言葉を発する前に「相手の立場に立つ」ことが大切です。相手の気持ちを想像し、寄り添う言葉は相手の心に届きます。そして、見落としがちですが、あなたが発信する言葉をあなた自身が受け取る機会の方が日常には多くあるはずです。あなたは、あなた自身に「やさしいことば」を使っていますか。あなた自身を丁寧に育てていますか。雑に扱っていませんか。自分を大切にしている者こそ、誰かを大切にできると、私は信じて疑いません。